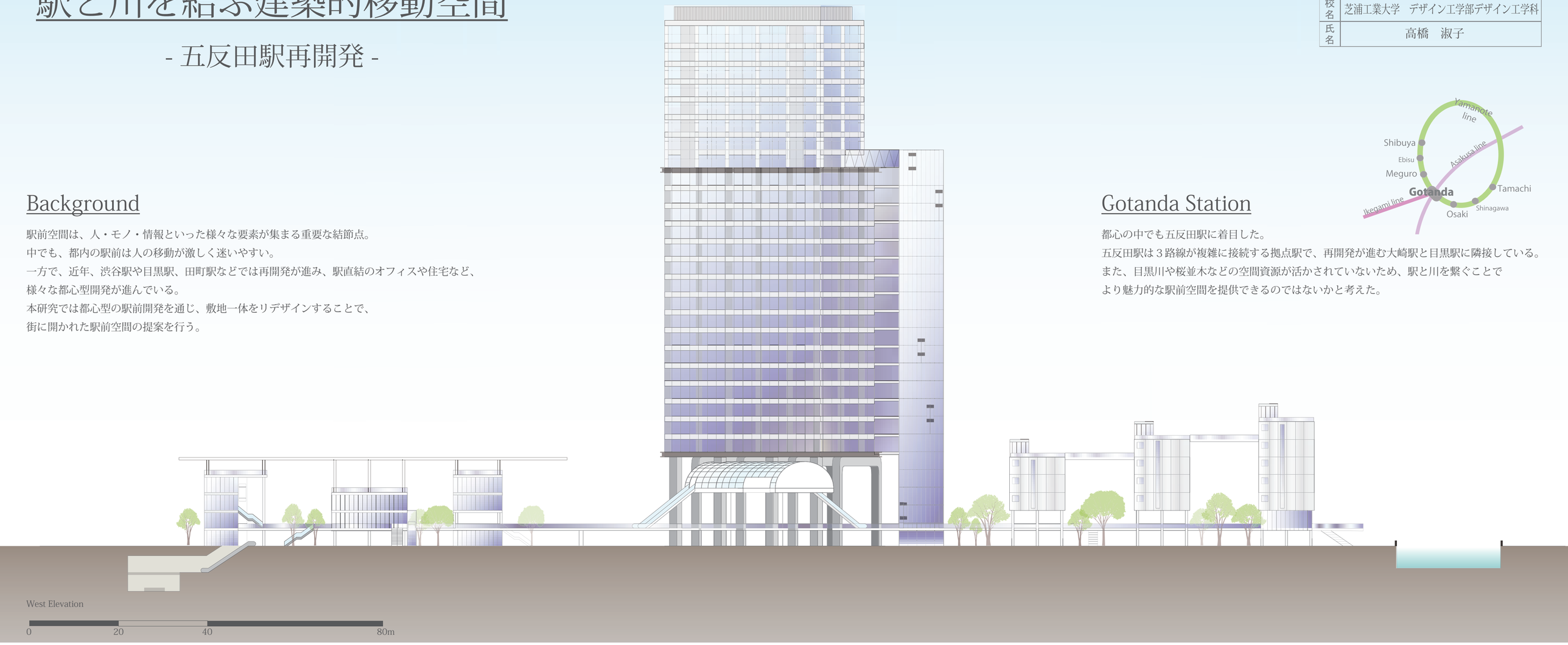
作品名	駅と川を結ぶ建築的移動空間	作品番号	1/5
校名	芝浦工業大学　デザイン工学部デザイン工学科		
氏名	高橋　淑子		

駅と川を結ぶ建築的移動空間

- 五反田駅再開発 -

Background

駅前空間は、人・モノ・情報といった様々な要素が集まる重要な結節点。
中でも、都内の駅前は人の移動が激しく迷いやすい。
一方で、近年、渋谷駅や目黒駅、田町駅などでは再開発が進み、駅直結のオフィスや住宅など、
様々な都心型開発が進んでいる。
本研究では都心型の駅前開発を通じ、敷地一体をリデザインすることで、
街に開かれた駅前空間の提案を行う。

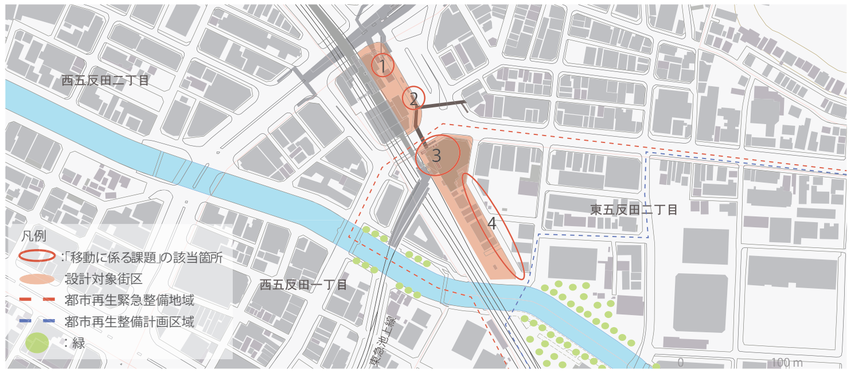


Gotanda Station

都心の中でも五反田駅に着目した。
五反田駅は３路線が複雑に接続する拠点駅で、再開発が進む大崎駅と目黒駅に隣接している。
また、目黒川や桜並木などの空間資源が活かされていないため、駅と川を繋ぐことで
より魅力的な駅前空間を提供できるのではないかと考えた。

Site

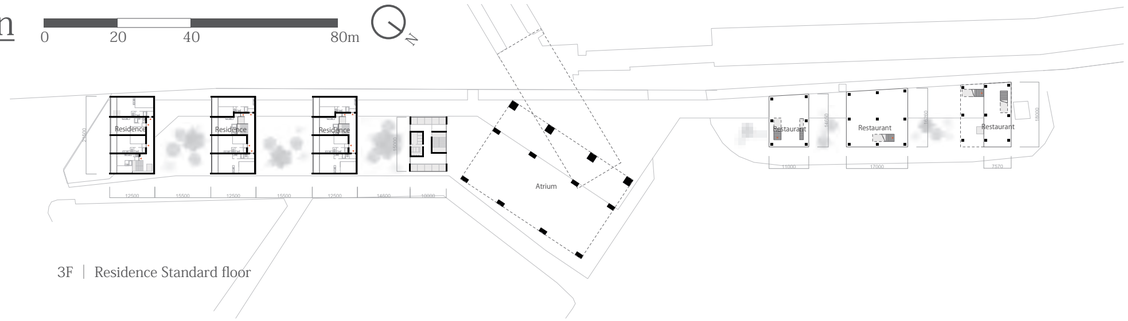
敷地は駅周辺の２街区とする。五反田駅は４つの課題を抱えていることが調査によりわかった。
【1, 視界を遮る店舗 2, 雨ざらしの歩道橋 3, バリアフルな連絡通路 4, 目黒川へのアクセスの悪さ】である（写真右）。４つの課題は二つの街区にまたがる。課題３と４がある川街区は目黒川にもつながっていることから、駅街区と川街区を統合し開発することで、課題の改善と同時に目黒川の緑を引き込むことが可能になる。



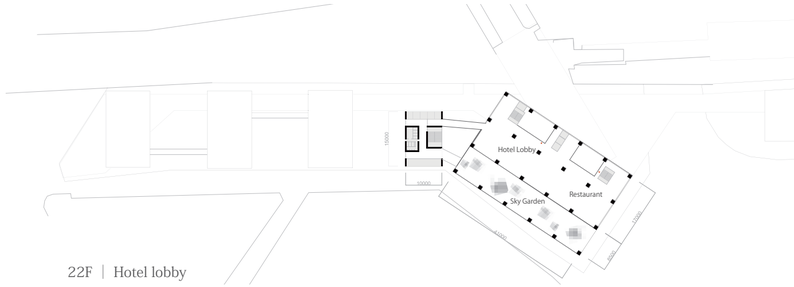
作品名	駅と川を結ぶ建築的移動空間	作品番号	2/5
校名	芝浦工業大学　デザイン工学部デザイン工学科		
氏名	高橋　淑子		

Plan

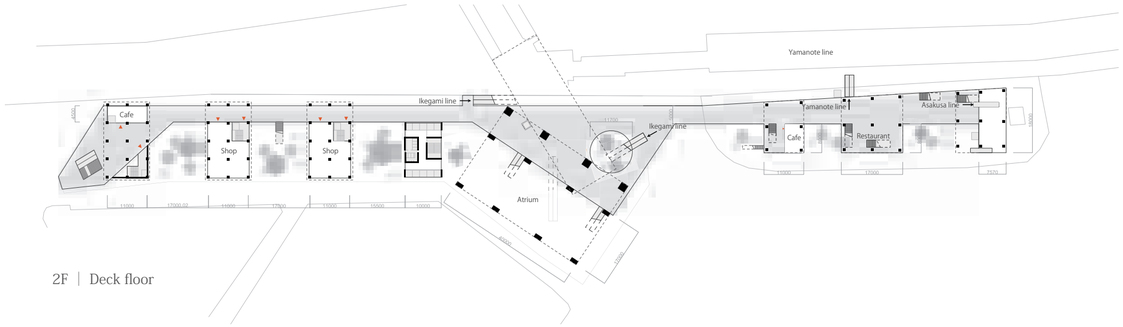
0　20　40　80m



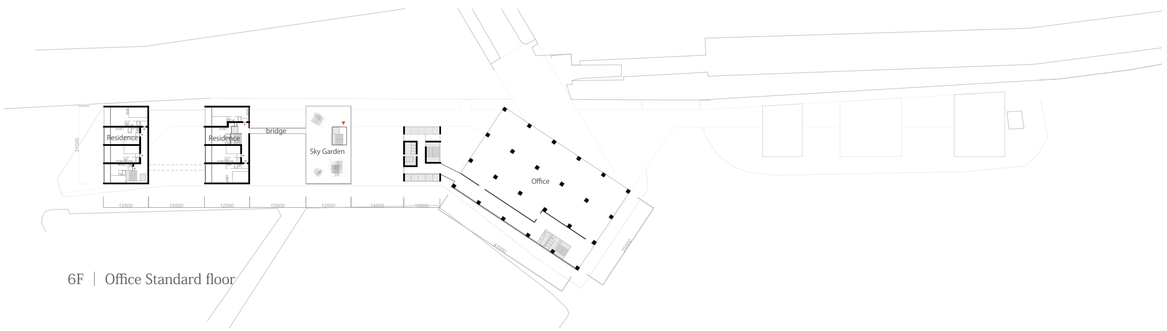
3F | Residence Standard floor



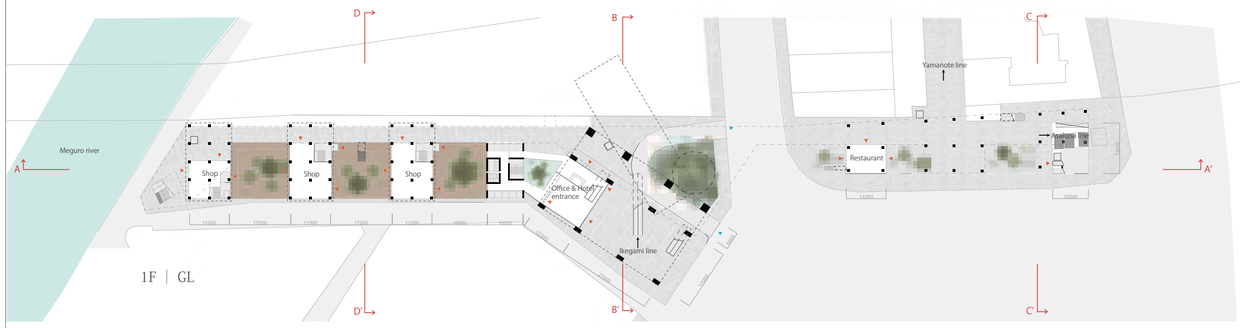
22F | Hotel lobby



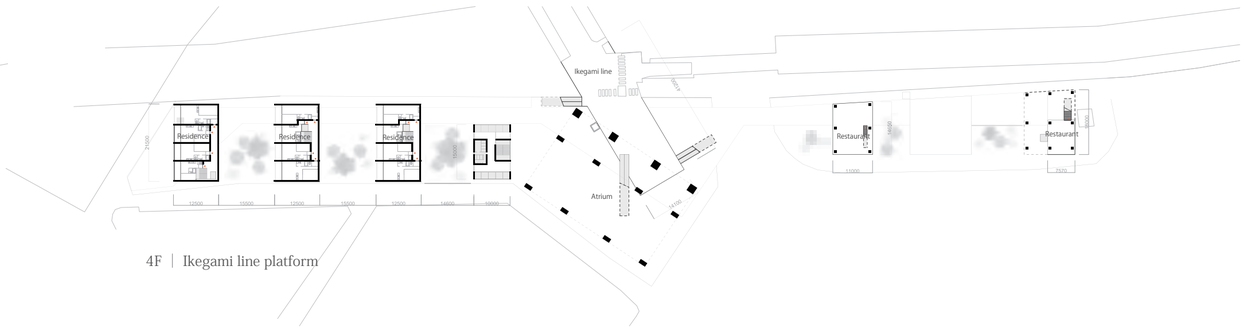
2F | Deck floor



6F | Office Standard floor



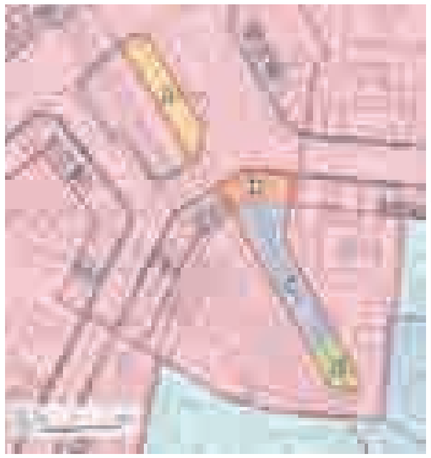
1F | GL



4F | Ikegami line platform

floor area ratio

品川区の統合型地図情報サービスを利用し、設計対象地における容積率を算出した。



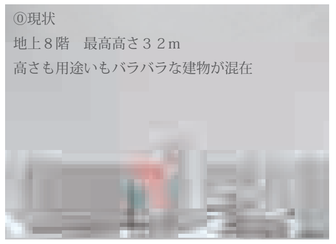
「用途地域等の規制情報」より
規制別に敷地を４分割しａ～ｄとする。

ａ：駅街区
ｂ：川街区 - 都道３１７号線 (ソニー通り) 沿い
ｃ：川街区 - 路地沿い
ｄ：川街区 - 都市計画道路沿い

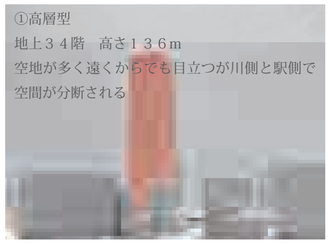
エリア	面積	法定容積率	最大床面積
a	1280.69㎡	800%	10245.52㎡
b	939.96㎡	800%	7519.68㎡
c	2946.35㎡	500%	14731.75㎡
d	516.38㎡	0%	0㎡
合計	5683.38㎡	571%	32496.95㎡

Volume Study

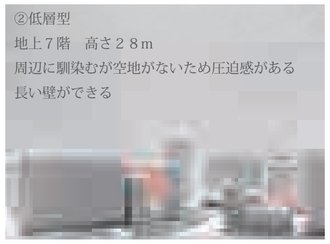
最大床面積３２，４９６㎡を駅街区と川街区に振り分ける。検討と評価は以下の５つで行い、メリットを活かしデメリットに配慮したボリュームを算出した。



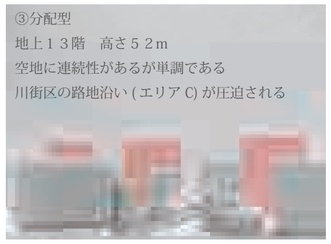
⓪現状
地上８階　最高高さ３２ｍ
高さも用途いもバラバラな建物が混在



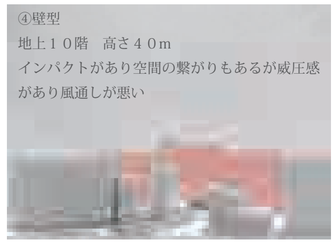
①高層型
地上３４階　高さ１３６ｍ
空地が多く遠くからでも目立つが川側と駅側で空間が分断される



②低層型
地上７階　高さ２８ｍ
周辺に馴染むが空地がないため圧迫感がある
長い壁ができる



③分配型
地上１３階　高さ５２ｍ
空地に連続性があるが単調である
川街区の路地沿い (エリア C) が圧迫される

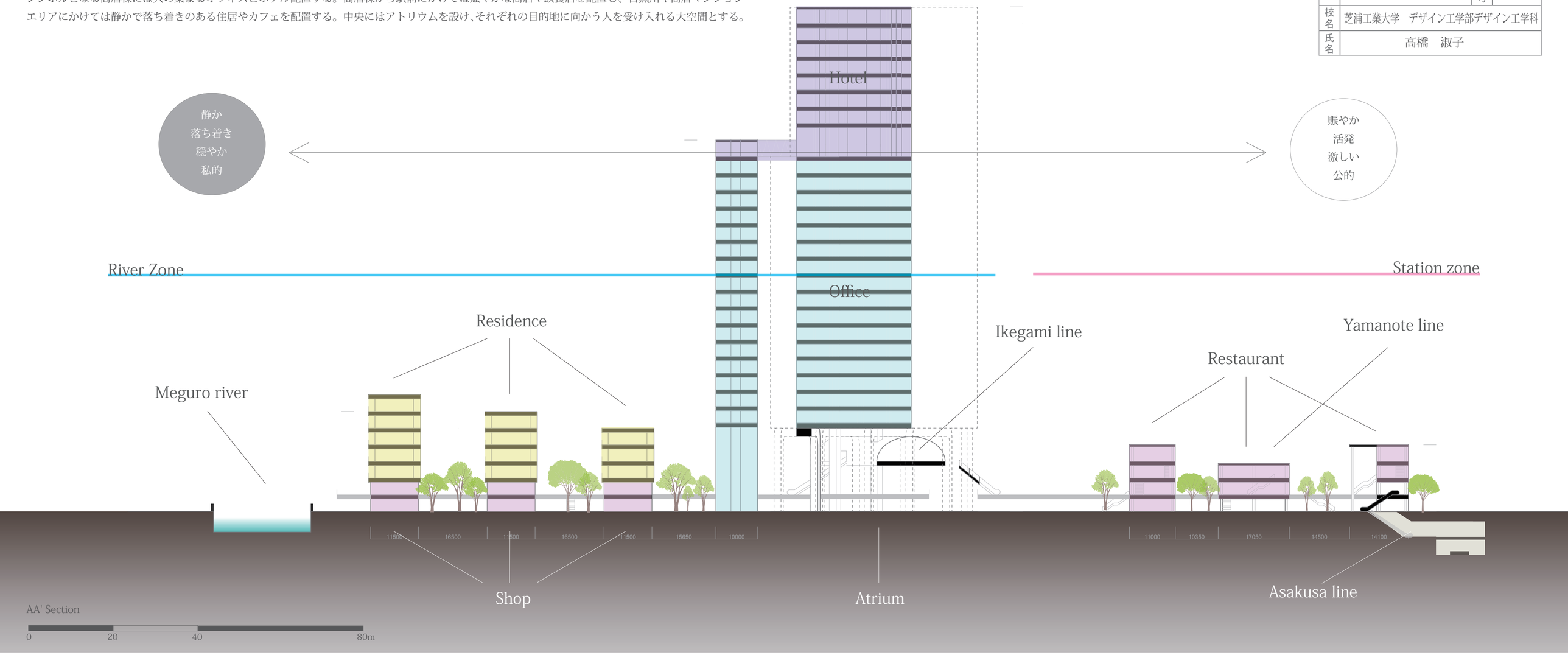


④壁型
地上１０階　高さ４０ｍ
インパクトがあり空間の繋がりもあるが威圧感があり風通しが悪い

作品名	駅と川を結ぶ建築的移動空間	作品番号	3/5
校名	芝浦工業大学　デザイン工学部デザイン工学科		
氏名	高橋　淑子		

Zoning

シンボルとなる高層棟には人の集まるオフィスとホテル配置する。高層棟から駅前にかけては賑やかな商店や飲食店を配置し、目黒川や高層マンションエリアにかけては静かで落ち着きのある住居やカフェを配置する。中央にはアトリウムを設け、それぞれの目的地に向かう人を受け入れる大空間とする。



Volume diagram

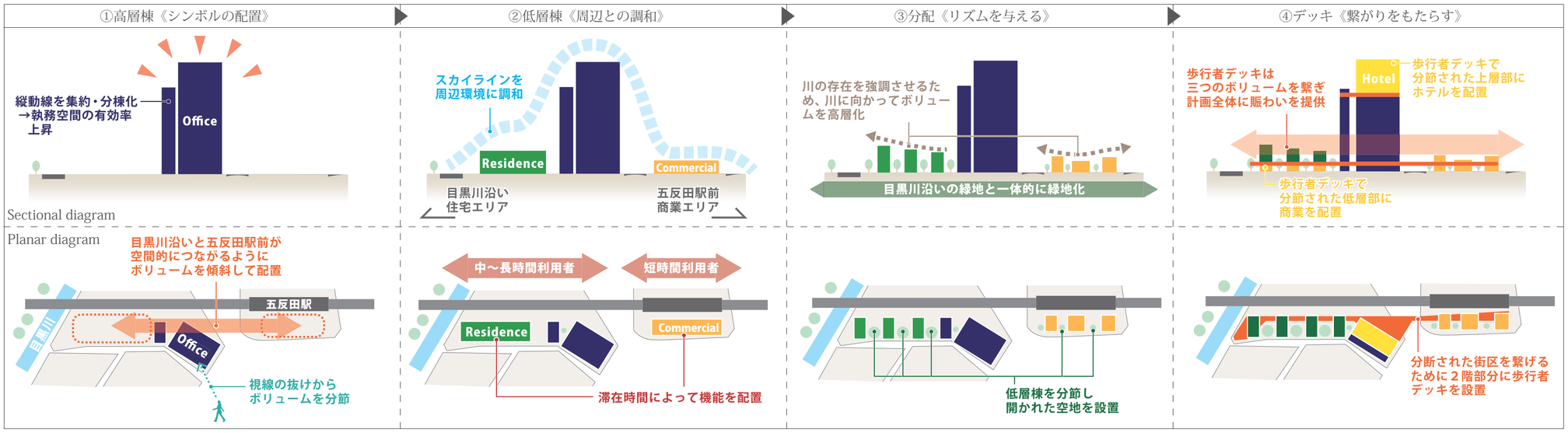
Volume Study ①～④のメリットを活かしデメリットに配慮したボリュームを算出した。

①：高層棟を真ん中に配置し、シンボルとする。ただし軸を傾けて川側と駅側の空間を繋ぐように配慮する

②：高層棟の両側に低層棟を並べて周辺と馴染ませる

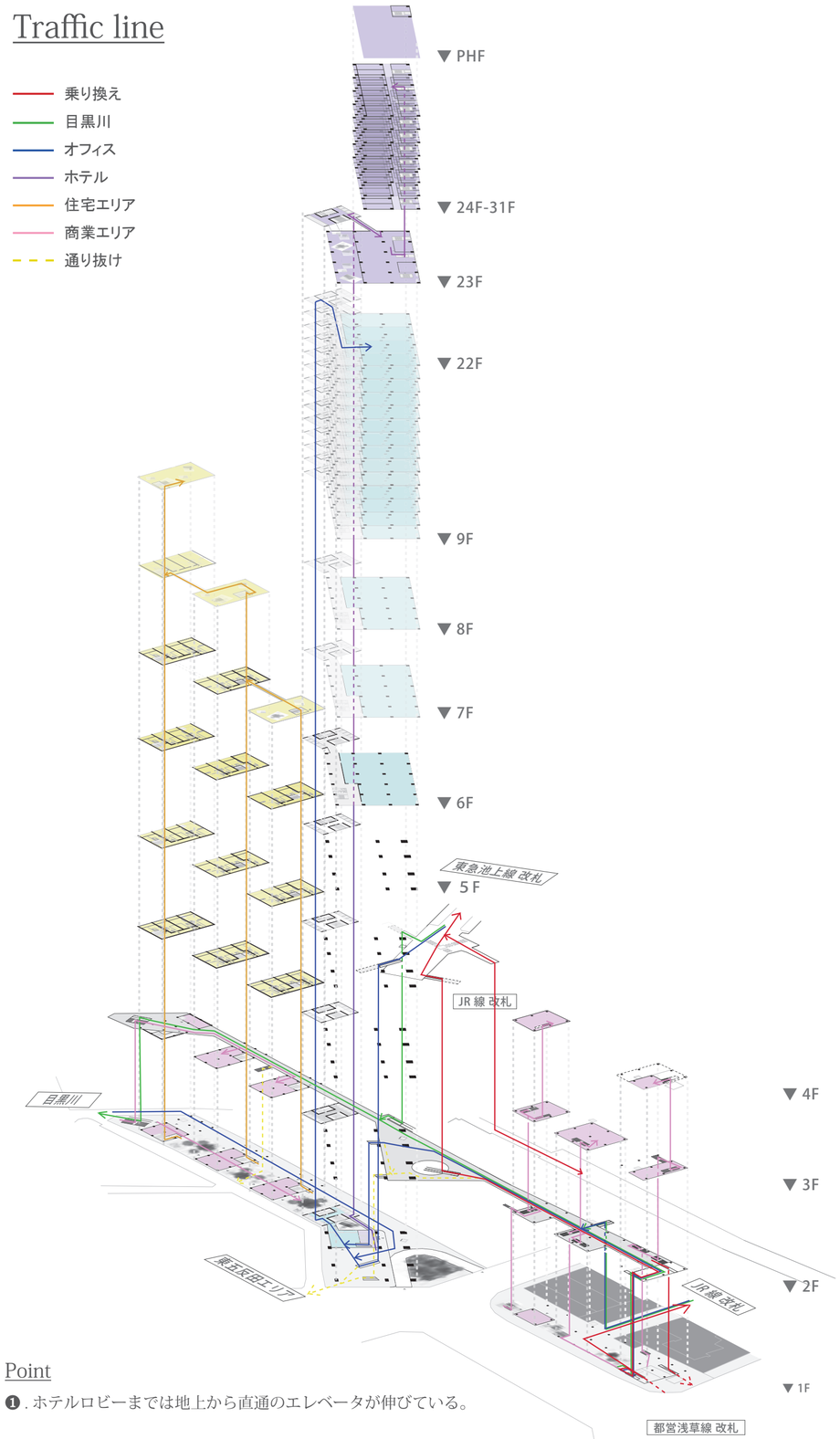
③：低層棟を分配することでできた空地に緑の空間を設け、単調にならないように建物の高さを変えてリズムを与える

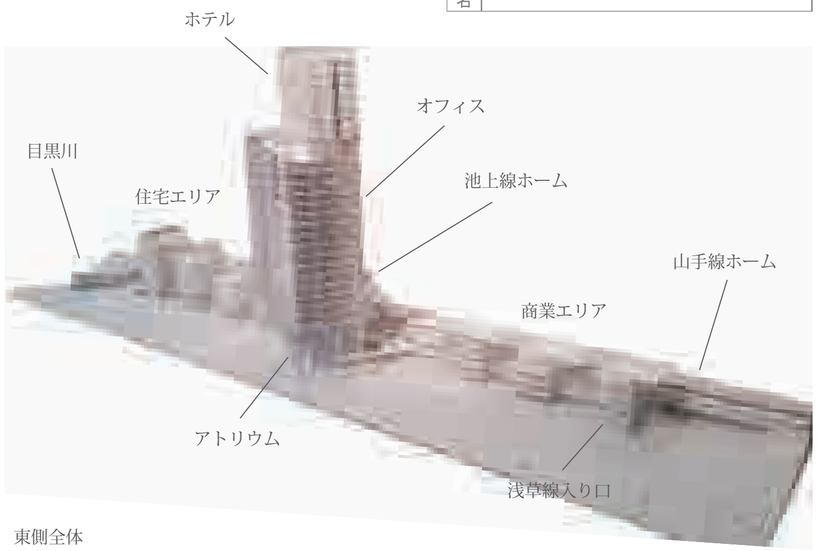
④：敷地の橋から端まえデッキを掛けて全ての空間に繋がりをもたらす



作品名	駅と川を結ぶ建築的移動空間	作品番号	4/5
校名	芝浦工業大学　デザイン工学部デザイン工学科		
氏名	高橋　淑子		

Traffic line





東側全体

❶. オフィス・ホテル

❷. 住宅エリア

❸. アトリウム

❹. 駅前と池上線コンコース

Point

❶. ホテルロビーまでは地上から直通のエレベータが伸びている。

❷. 目黒川・住宅エリアへは各路線からデッキを使って直接アクセスできる。

❸. オフィス・ホテルのエントランスを持つアトリウムへはコンコースから１本、デッキから２本の動線が伸びる。

❹. デッキが浅草線 (B1) と池上線のコンコース (4F) をつないでいる。

Activity

作品名	駅と川を結ぶ建築的移動空間	作品番号	5/5
校名	芝浦工業大学　デザイン工学部デザイン工学科		
氏名	高橋　淑子		

オフィス

オフィスのコアを窓側に配置することで人々が活発に動く様子を外から伺えるようにした。

アトリウム

ランチタイムにはワゴンが止まりオフィスワーカーで賑わう。

商店

商店の壁は全てガラス張りになっていて、駅前の賑やかな景色を取り込む。

駅前

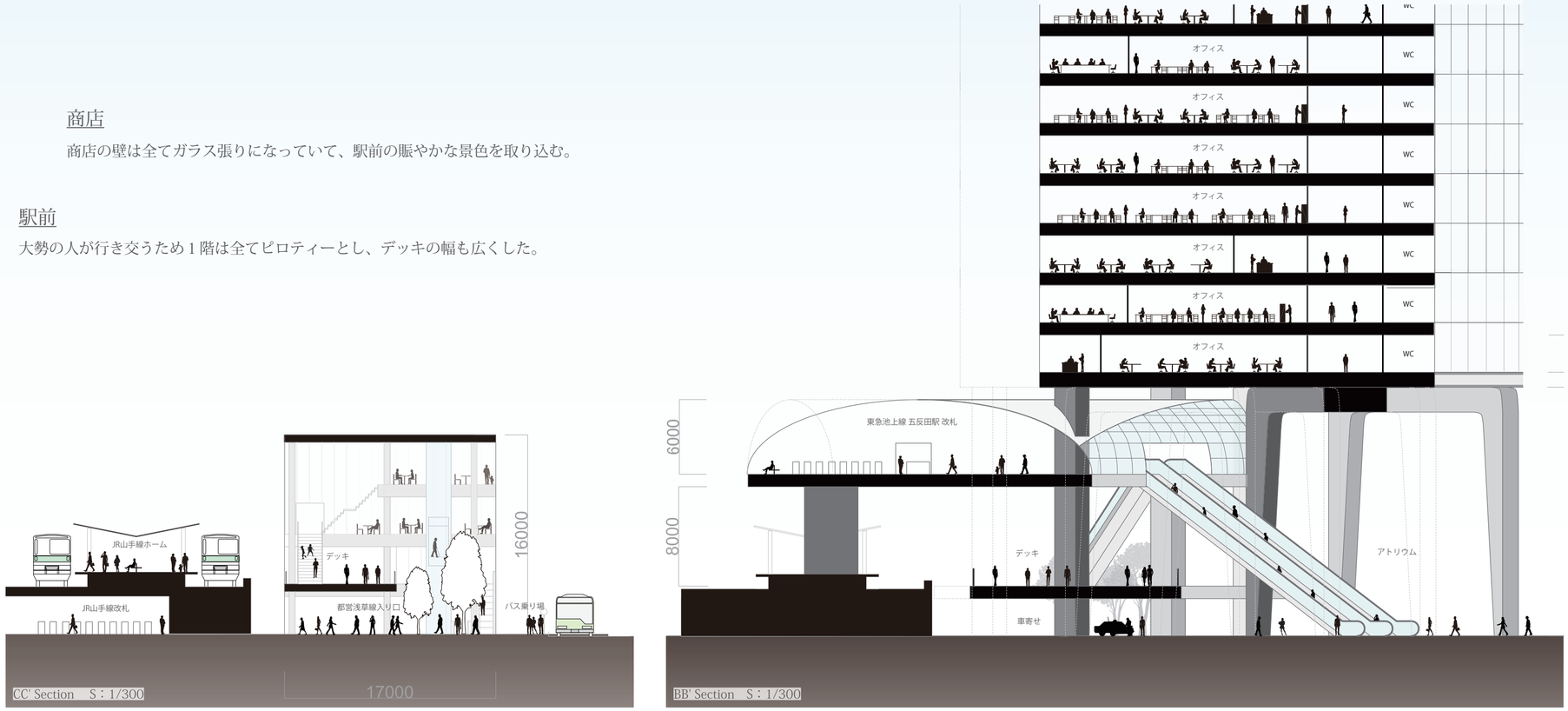
大勢の人が行き交うため１階は全てピロティーとし、デッキの幅も広くした。

住居

橋で繋がれた屋上は住人専用の共有スペースとし住人同士のコミュニケーションの場になる。

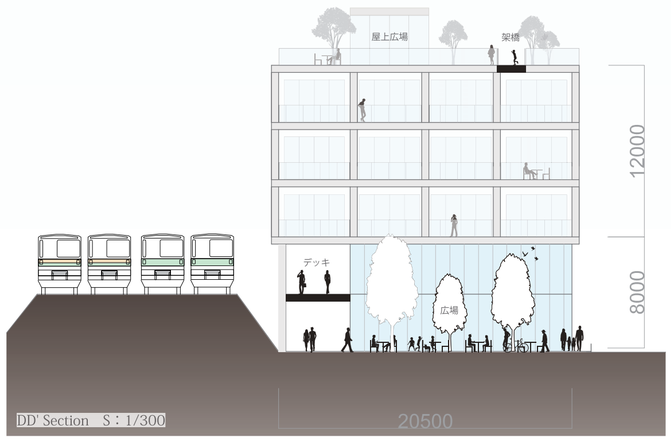
広場

一般の人も利用できる街に開かれた空間となっている。



BB' Section　S：1/300

CC' Section　S：1/300



DD' Section　S：1/300

駅前・商業

住居・広場